

## Experiences of Cultural Revolution and the Mental Health of Middle-aged and Older Adults

KAJITANI, Kai

### 報告要旨

本研究では、中国全土における中高年の精神及び身体の健康状態に関する包括な調査である CHARLS のデータを用いて、1966-68 年における文化大革命の暴力の経験が、現在の中高年の人々のメンタルヘルスに及ぼす影響について実証的に分析する。

CHARLS (China Health and Retirement Longitudinal Study、<http://charls.pku.edu.cn/>) は、北京大学の研究チームが 2011 年より実施している全国 150 の県級行政区、450 の行政村、訳 1 万戸の世帯を対象とした継続的な世帯調査である。現在までに 2011、2013、2015、2018 年のパネルデータ並びに 2015 年に実施されたライフヒストリーに関する調査の結果が入手可能である。

われわれはまず、この CHARLS のデータと、スタンフォード大学の A.Walder 教授によってデータベース化された、中国全土の 2,264 におよぶ県および市級の地方誌のデータより抽出された 1966 年から 1971 年までの文革による死者及び犠牲者のデータを照合させた。次に、CHARLS データの回答者をプレ文革世代 (1947 年以前生まれ)、紅衛兵世代 (1948 年~55 年生まれ)、ポスト紅衛兵世代 (1956~69 年生まれ)、ポスト文革世代 (1970 年以降生まれ) の四つの世代に分類した。さらにそれぞれの世代ごとのダミー変数 (ポスト文革世代をベンチマークとする) を Walder 教授が作成したデータベースにおける、各地域の百万人あたりの死者・犠牲者の数と掛け合わせた交差項を最も重要な説明変数として作成した。そのうえで、抑うつ状態を表す一般的な指標である CESD スコアを被説明変数として回帰分析を行った。

その結果、交差項はサンプル全体では有意でなかったものの、父親の階級が地主或いは富農民さらには都市の富裕層や、政治的「右派」だと回答した回答者のみを取り上げた場合には、各世代について正で有意、すなわち文革の犠牲者が大きかった地域においてはプレ文革世代、紅衛兵世代、ポスト紅衛兵世代のいずれも、メンタル状態が有意に悪化しているという結果が得られた。また紅衛兵への参加経験を被説明変数とし、そこに影響を与える要因を分析した結果、父親の階級が悪い人々は有意に紅衛兵の参加の確率が低いことも見出した。

分析の結果より我々は、文革期の経験がメンタルヘルスに及ぼす影響は 1970 年以前に生まれた広範な世代について観測され、さらにその影響は現在まで持続していること、その影響は地域ごとに大きく異なること、またその影響は父親の階級によって大きく左右されることを見出した。

本研究は、文化大革命が中国の人々に及ぼした精神的な影響をより詳細に分析する上で大きな貢献をなすものと考えます。